

令和 3 年 7 月 7 日 大野市総合計画・総合戦略推進会議 第 1 回ごみ減量部会資料

大野市の一般廃棄物の現状について

廃棄物の定義について

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）」から抜粋

（定義）

第二条 この法律において「廃棄物」とは、ごみ、粗大ごみ、燃え殻、汚泥、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体その他の汚物又は不要物であって、固形状又は液状のもの（放射性物質及びこれによって汚染された物を除く。）をいう。

2 この法律において「一般廃棄物」とは、産業廃棄物以外の廃棄物をいう。

（略）

4 この法律において「産業廃棄物」とは、次に掲げる廃棄物をいう。

一 事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類その他政令で定める廃棄物

（略）

廃棄物の定義について

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）」から抜粋

（一般廃棄物処理計画）

第六条 市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画を定めなければならない。

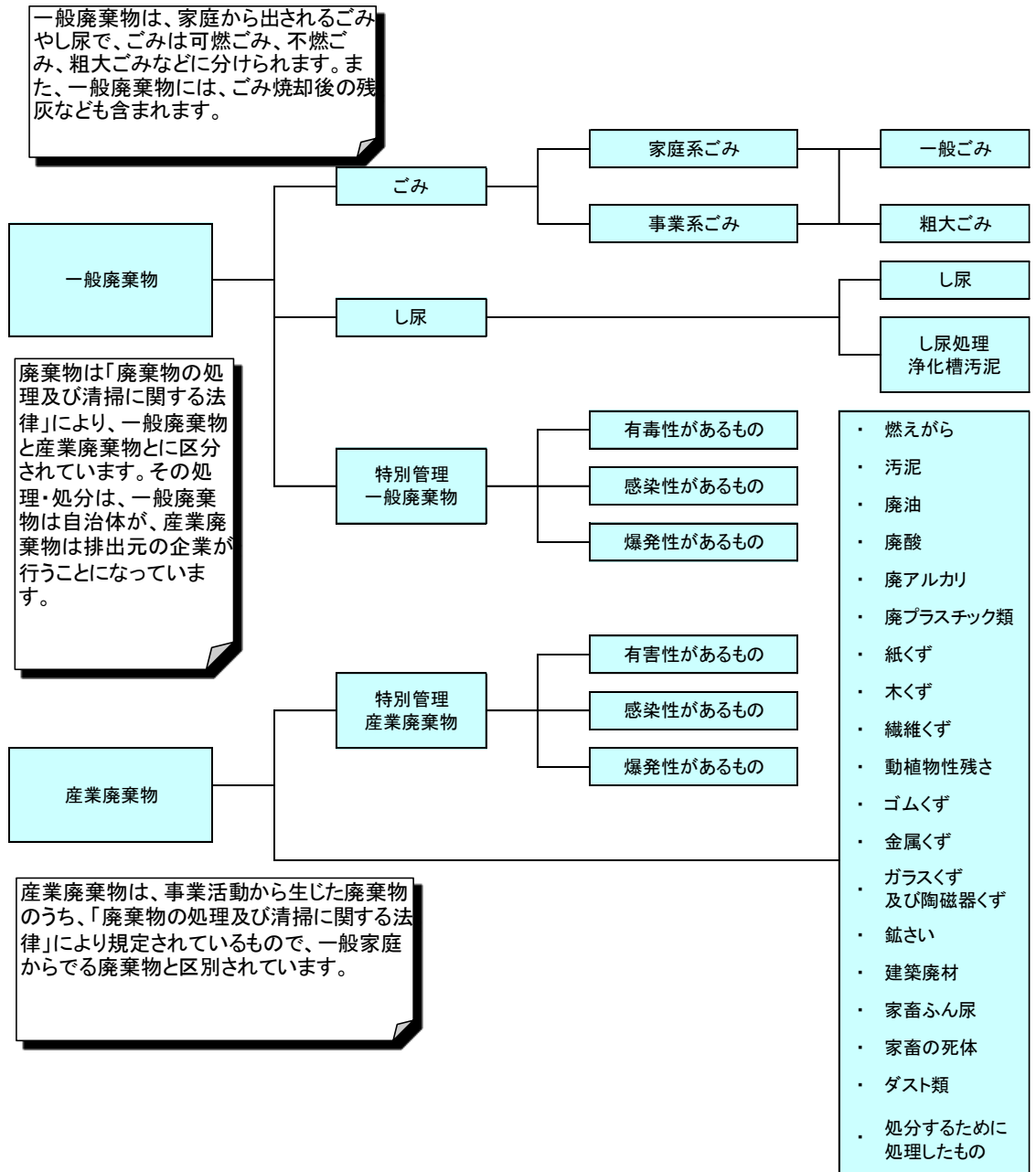
（略）

（市町村の処理等）

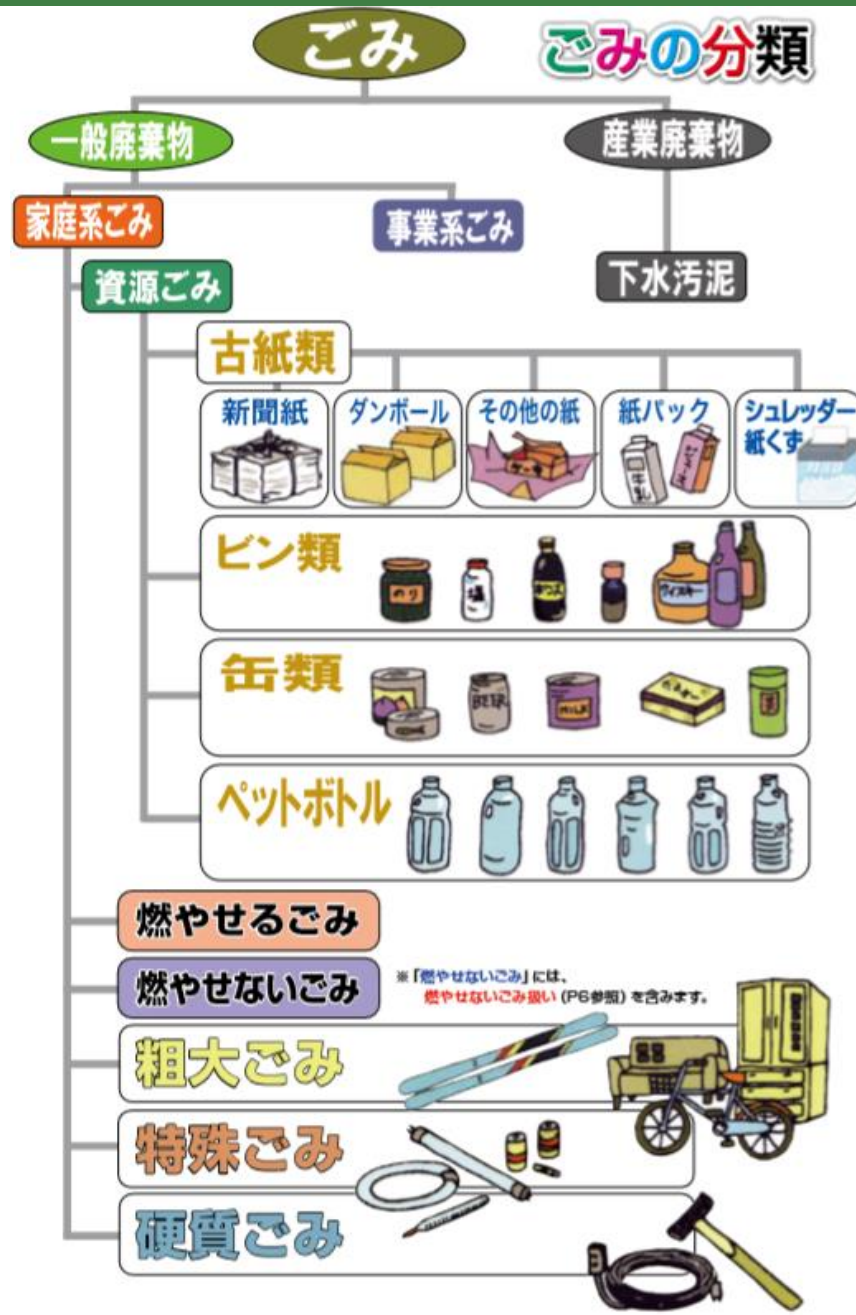
第六条の二 市町村は、一般廃棄物処理計画に従って、その区域内における一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集し、これを運搬し、及び処分しなければならない。

（略）

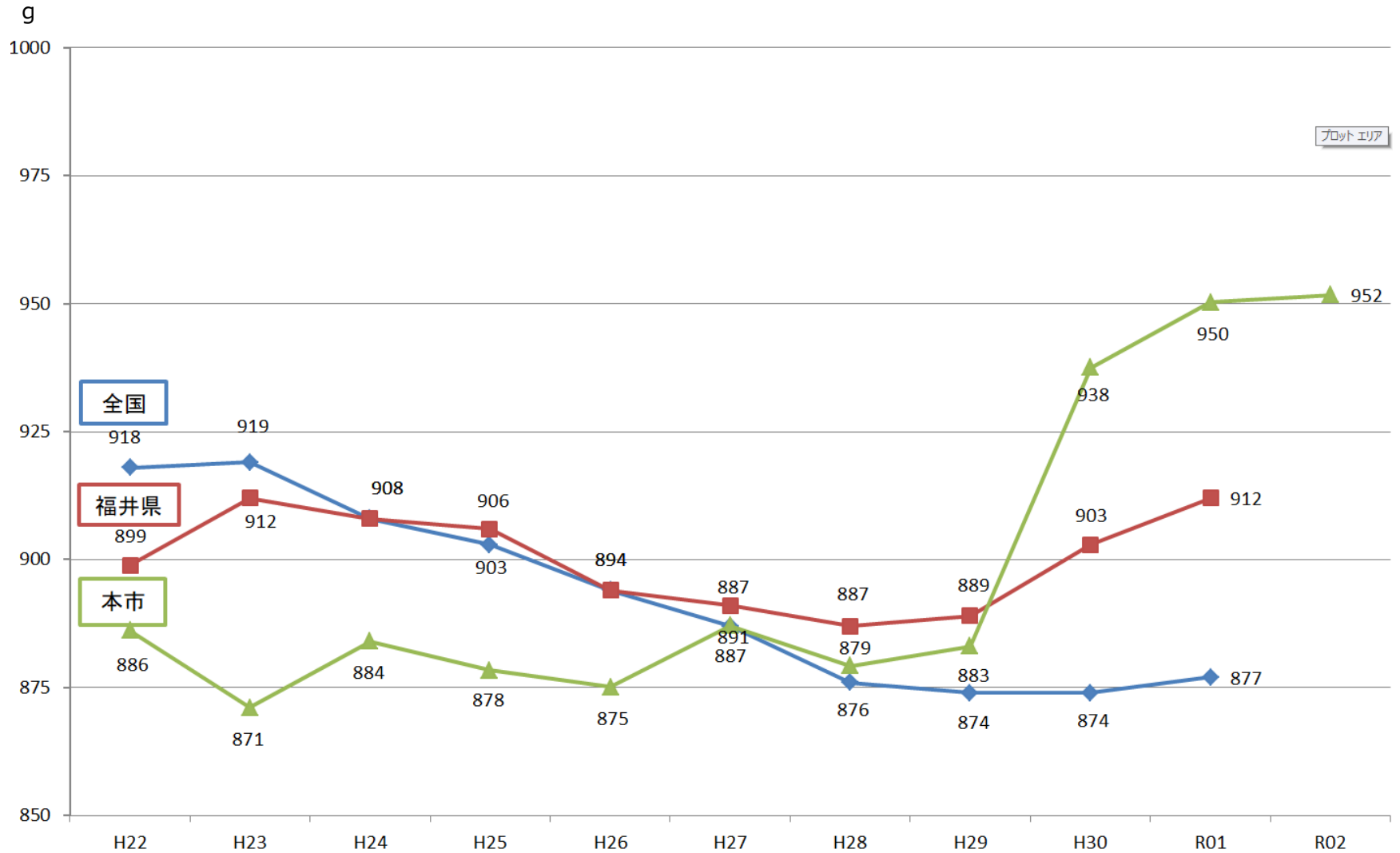
廃棄物の分類（廃掃法による）



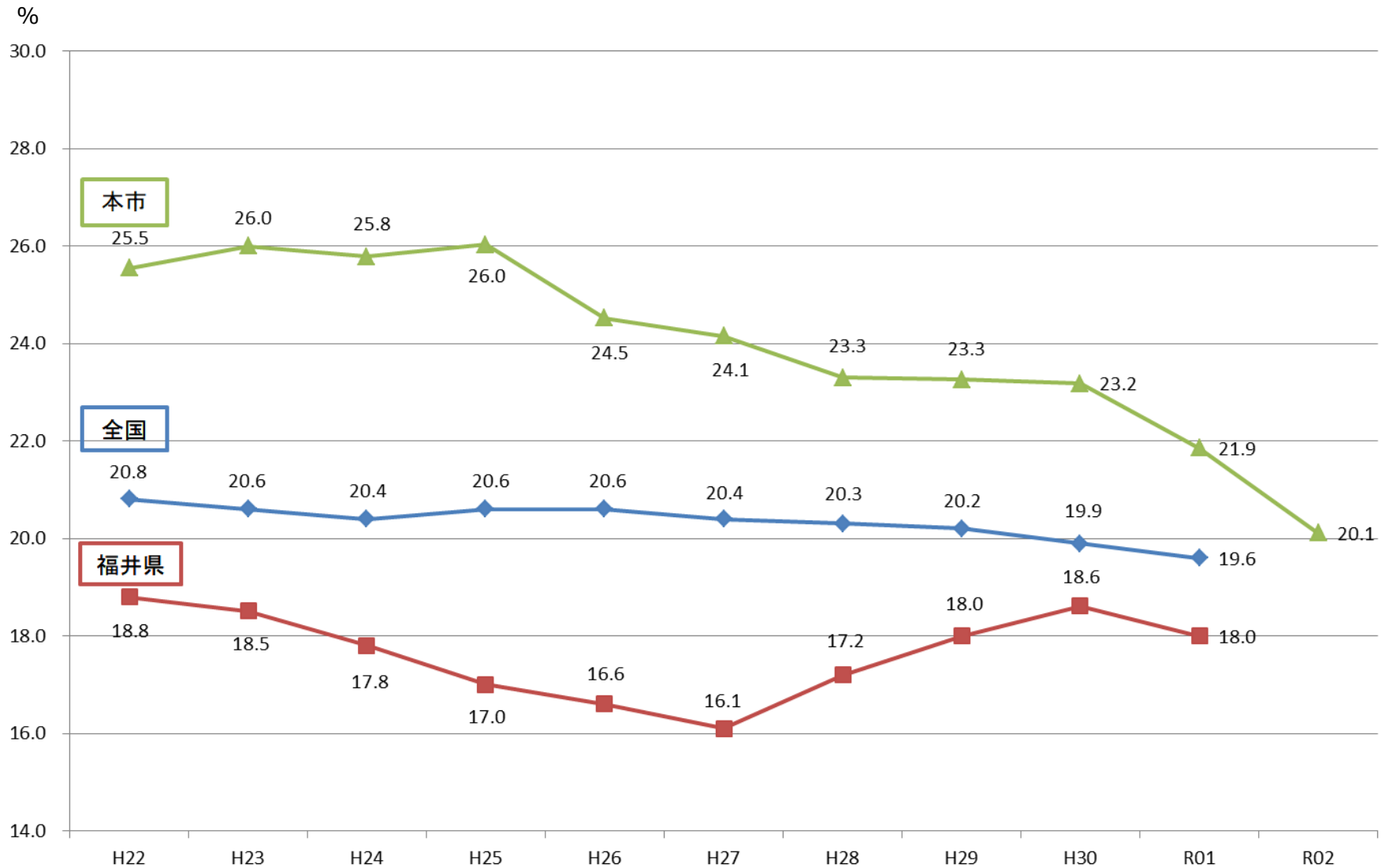
本市のごみの分類



1人1日当たりごみ排出量の推移



リサイクル率の推移

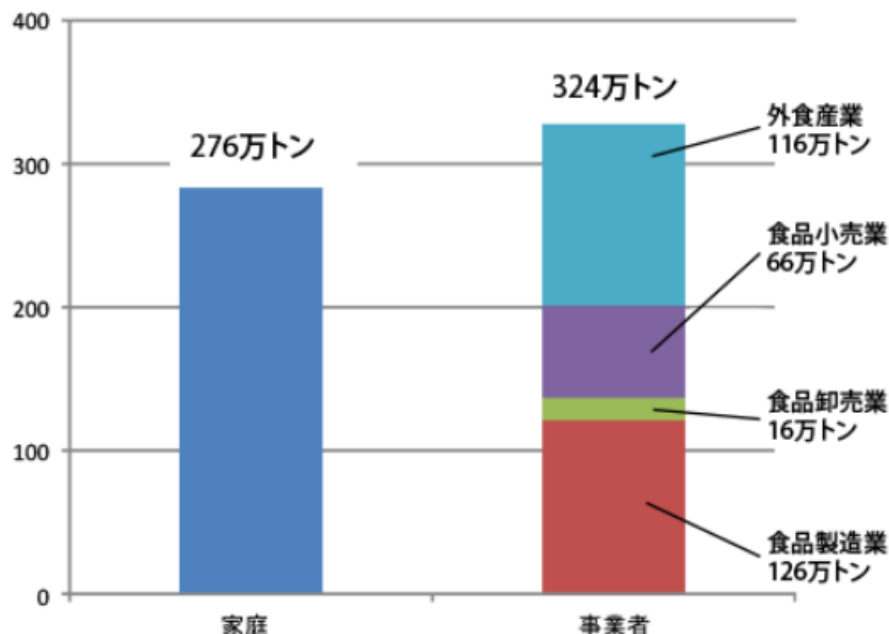


食品ロスの削減に向けて

食品ロスは、どれくらい発生しているの？

食品ロスとは、本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食べ物のことです。

日本では平成30年度に、約600万トンの食品ロス(事業者から約324万トン、家庭から約276万トン)が発生したと推計されています。

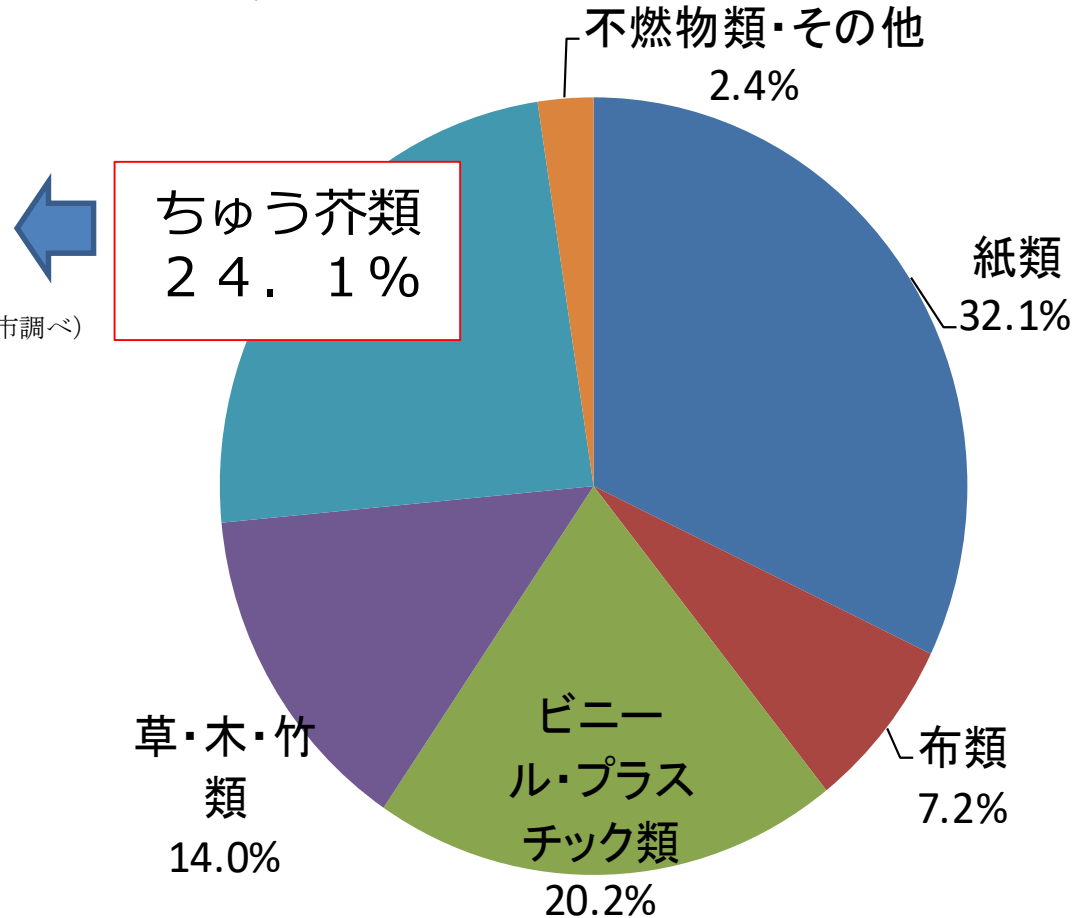


国民一人一日当たり 約 130.1g/人日

食品ロスの削減に向けて

燃やせるごみの内訳（令和元年）

ごみそのままの重量割合



このうちの
37.5% (※1) が
食品ロス

(※1) ちゅう芥類に占める食品ロス量の割合 (H30福井市調べ)

- ・賞味期限や消費期限切れ
- ・食べ残し など

約900t/年

市民一人一日当たり

約75g/人日

資料：大野・勝山地区広域行政事務組合「ごみ質測定」を基に大野市作成

おにぎり（1こ約110g）を一口かじって捨てている!!

食品ロスの削減に向けて

なぜ食品ロスを減らさないといけないのか？

< 家庭 >

- ・食費の節約（無駄なものを買わない、無駄なく食べる）

< 事業者 >

- ・経費の削減（過剰仕入れコスト、在庫管理コスト、運搬コスト）
- ・CO₂排出量の削減（保冷蔵、運搬）

< 行政 >

- ・ごみ処分費用の削減（焼却コスト、運搬コスト（回数））
- ・CO₂排出量の削減（焼却燃料の減、運搬車の燃料の減）

< 国・世界 >

- ・食糧難の改善（気候変動→食糧生産量減 日本：食料自給率37%^(※1)）

…など

(※1) カロリーベース(H30) (農林水産省資料より)

食品ロスの削減に向けて

大野市の取り組み（令和3年度の新たな取り組み）

◆フードドライブの実施（「県民せいきょう」との連携）

6月11日
~13日

第2回
12月



家庭や職場で余っている食べきれない食品を持ち寄り、必要としている福祉団体・施設などに寄付する活動

→生活困窮者や子ども食堂への食料支援

→食品ロス削減

同時解決!!

◆学習会などの開催

（出前講座＋「県民せいきょう」連携講座）

◆普及啓発活動

（広報おおの、HP、SNS、チラシなど）

◆「おいしいふくい食べきり運動」への協力

・・・など

🌞おいしいふくい食べきり運動とは？

STEP1

家庭やホテル・レストランなどで、おいしい福井の食材を使っておいしい料理を作り



STEP2

作られた料理をおいしく食べきって

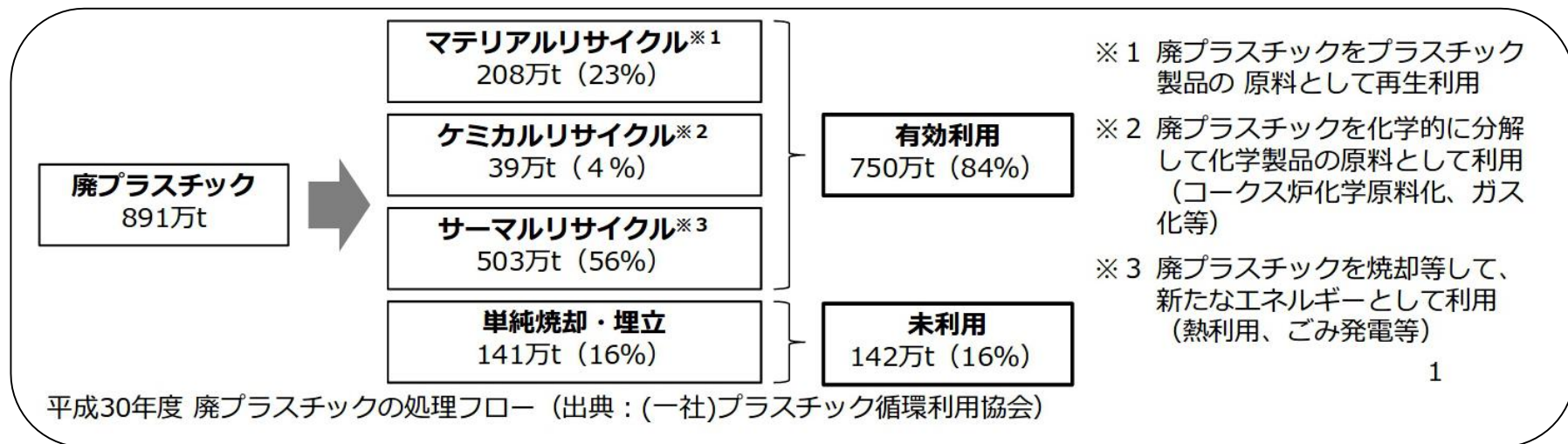


STEP3

残ってしまった料理は、家庭で新たな食材としてアレンジ料理に活用し、外食時には持ち帰って家庭で食べきろう！

プラスチックごみの削減に向けて

◆国内における廃プラスチックの処分状況（H30）



◆レジ袋有料化（R2.7）の効果

マイバッグ持参率(市内3スーパー調べ)

店舗	R2.3	R2.9
A 店舗	87.1%	91.3%
B 店舗	87.2%	92.8%
C 店舗	87.7%	100.0%
D 店舗	87.7%	99.7%
E 店舗	85.4%	100.0%
F 店舗	86.7%	89.5%

有料化により
持参率アップ

しかし、
コンビニ利用者等
への普及が課題

プラスチックごみの削減に向けて

大野市の取り組み（令和3年度の新たな取り組み）

◆生分解性マルチの利用促進（農業林業振興課）



化石燃料由来の農業用マルチの廃棄作業削減

→人口減少、高齢化を見据えた
農作業の省力化

→脱プラスチック

同時解決!!

◆学習会などの開催（出前講座など）

◆使い捨てプラスチックの削減（マイバッグやマイボトルの普及促進）

◆バイオプラスチックなどの利用促進（事業者・市）

◆プラスチックごみの分別回収方法の検討

・・・など